

厚別区内の各学校では、総合的な学習の時間においてさまざまな「福祉教育」を行っています。

福祉教育の理念

ふだんのくらしのしあわせを考えること

福祉教育は、教育分野と社会福祉分野が重なり合い、子どもたちの学びの支援から地域住民に対する生涯学習の視点まで、幅広くとらえることができます。子どもたちに「ふだんのくらしのしあわせ」を考えてもらうことで「やさしさ」をもち「地域の中で生きている」ことを理解してもらえるよう社会福祉協議会は支援を進めてきました。

各学校が取り組んでいる「福祉教育」の活動についてご紹介します。

青葉小学校

4年生 総合学習：福祉教育（9月12日、19日、26日）



【アイマスク体験・点字体験・手話体験】

青葉小学校では4年生の総合的な学習の時間において、3日間に分けて福祉体験授業を行いました。

障がいのある方を講師に迎え、普段の生活の様子などを伺い、児童の皆さんは熱心に耳を傾けていました。

また、実際にアイマスク体験や点字、手話体験を行うことで当事者の立場を理解する体験にもつながりました。

授業終了後は、給食の時間に講師の方も一緒にお昼を食べ、児童の皆さんとさらに交流を深めることができました。

上野幌中学校

平成29年度社会福祉協力校指定校

1年生 福祉体験（10月25日）



【社会福祉施設への職業体験】

上野幌中学校の1年生5人が、職業体験で青葉地区にあるデイサービス花梨の森・橋本さん家に訪問しました。普段はなかなか接することがない世代との交流ということもあり、デイサービスの利用者も生徒も最初は緊張がみられましたが、時間が経つごとに打ち解け笑顔がみられるようになりました。

デイサービス花梨の森・橋本さん家では、お昼ご飯を職員と利用者が一緒に作っており、生徒たちも一緒にお手伝いをしました。包丁の使い方や盛り付け方を職員や利用者から教えてもらいながら、楽しく交流する時間となりました。

参加した生徒からは「日々の暮らしの大切さに改めて気づくことができた。」「学んだことを活かして生活していきたい。」といった感想がありました。